

市長定例記者会見資料



令和6年3月26日	
所 属	こども教育支援課
所属長	福田 晃大
電 話	06-6409-4995

切れ目のない支援のためにスクールソーシャルワーカーの体制を強化 令和8年度、全17中学校区に1人専任配置へ

尼崎市では『あまがさき子ども・子育てアクションプラン』の1つとして、スクールソーシャルワーカーを現在の10名から段階的に増員を行い、令和8年度には17名を配置する予定であり、令和6年度は3名増員します。また、全17中学校区に専任のスクールソーシャルワーカーを1名ずつ配置することで、小中一貫した切れ目のない支援を行うとともに、令和8年度に開設する児童相談所等の関係機関と連携し、支援体制の強化を目指します。

1 スクールソーシャルワーカーの役割

不登校、いじめ、発達の問題、貧困、虐待等、こどもを取り巻く様々な課題は多様化、複雑化しています。スクールソーシャルワーカーは、そのような課題の原因・背景が多岐にわたることを踏まえた上で適切にアセスメントを行い、支援の目標や方針を定め、多職種の専門家や関係諸機関につなぐ等、「社会に開かれたチーム学校」を支える重要な役割を担っています。

2 「配置派遣型」から「拠点巡回型」へ体制強化

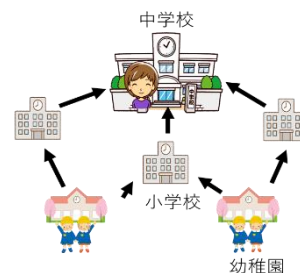
○ 「配置派遣型」

配置が必要な学校に対して重点的にスクールソーシャルワーカーを配置し、支援を行います。

配置学校における支援を重点的に行えるメリットがありますが、小学校から中学校への進学を見越した継続的な支援が行いにくい面があります。

○ 「拠点巡回型」

1つの学校を拠点として、同じ中学校区の小中学校、さらには必要に応じて幼稚園を定期的に訪問することで、小中一貫した切れ目のない支援体制が構築できます。



3 体制強化によって期待する効果

(1) 問題の未然防止および早期発見

小学校で支援をしている同じワーカーが、就学前の幼稚園や進学先の中学校を定期的に訪問することで、こどもの様子や変化をキャッチしやすくなり、問題の未然防止や早期発見、早期対応ができるようになります。

(2) 地域に関係機関等との連携強化

複数の中学校区（地区）にまたがらず、1つの中学校区（地区）に専任配置とすることで、ワーカーは担当する地区にある関係機関等との連携を強化できるとともに、地域資源の開発を行っていくことができます。

(3) チーム学校の推進・多職種連携の強化

教職員向けの研修会を実施したり、校内ケース会議に参加したりすることにより、教員と専門家との連携や学校と関係機関等との連携を強化できるようになります。

以 上